

The background is a bright yellow. A large, light green circle with a darker green border is in the upper left. Several smaller, thin green circles are scattered around. In the lower half, there are stylized green plants with multiple stems and clusters of small circles at the top, resembling dandelions or similar seed heads. A grey curved line runs diagonally across the middle.

2013

EM災害復興支援プロジェクト
事例集

第2回環境フォーラム
「うつくしまEMパラダイス」

日時：2013年11月9日（土） 13時開演

場所：福島県教育会館

主催：NPO 法人 地球環境・共生ネットワーク

後援：ふくしまFM

協賛：復興推進EM活用モデル事業参加38団体
NPO チェルノブイリへのかけはし

第2回環境フォーラム 『うつくしまEMパラダイス』開催にあたって

NPO 法人 地球環境・共生ネットワーク理事長
比嘉照夫



本環境フォーラムは、2011年3月11日の東日本大震災によって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所の事故によって被災した福島県を、EMの活用によって、放射能汚染問題を解決し「うつくしまEMパラダイス」にする目的で開催されるものです。

昨年の第1回のフォーラムでは、2012年までに得られた成果をチェルノブイリ原発事故の被災国であるベラルーシ国立放射性生物学研究所の研究結果の発表やベラルーシの子供達の内部被曝対策の成果やEMの多様な活用法について発表してもらいました。

その内容を総括すると、

- 1 有機物を投与しEMが十分に活動できる条件を整えて、EMの密度を高めるような栽培管理を行った農地では、作物による放射性セシウムの吸収は完全に抑制される。同時に作物の収量や品質が向上した。
- 2 EMを活用した酪農では、畜舎の衛生問題をすべて解決するとともに、その地域の汚染牧草を給与しても、牛乳中の放射性セシウムは5ベクレル以下となり（国の基準は50ベクレル）、その糞尿（スラリー）を散布された牧草地の放射能レベルが低下し、牧草の放射性セシウムの吸収も抑制されることが認められた。
- 3 EMの活性液を散布し続けた場所は、例外なく放射汚染レベルが低下しているが、降雨等で土壌水分の多い条件下で散布すると、より効果的である。
- 4 EMやEM・Xゴールドを活用すると電離放射線の被曝障害を完全に防ぐことが可能であり、内部被曝対策にも万全を期すことが可能である。
- 5 EMは、今後問題化すると予想されている放射性ストロンチウムの作物への吸収抑制にも顕著な効果がある。
- 6 EMを散布された周りの数メートルから数十メートルの放射線量も低下する。

以上の成果を福島県を中心とする低線量汚染地帯で実施すれば、放射能汚染問題を根本から解決することが可能であるといえます。とはいっても、これまでの放射能に関する常識ではあり得ないことですので、この成果が公的に活用される可能性は限られており、当NPO法人地球環境・共生ネットワークのボランティア活動である「災害復興支援プロジェクト」に頼っているのが現状です。

この「災害復興支援プロジェクト」はすでに50件近くとなり、年々希望者は増え続け、休止する例は殆どなく着実に広がっています。

第2回の今回のフォーラムは、昨年の成果を踏まえ、経年的にどのような結果になったのかという放射能汚染対策の根本を意識し、昨年度に発表いただいた方々の報告を中心に、その後の新知見やベラルーシ国立放射線生物学研究所のEMやEM・Xゴールドによる研究成果を報告してもらうことになっています。

EMのコンセプトは、すべてのものに対し「安全で快適」「低コストで高品質」「善循環的持続可能」となっており、この力は放射能汚染地帯においても無限なる力を発揮してくれます。

最後に、本フォーラム開催にあたってご協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げると同時に、福島県が「うつくしまEMパラダイス」になることを期待しています。

目次

P 2	第2回環境フォーラム『うつくしまEMパラダイス 2013』開催にあたって NPO法人 地球環境・共生ネットワーク理事長 比嘉 照夫
P 4-5	U-net EM災害復興支援プロジェクト概要
P 6	EM研究機構 復興支援プロジェクト研究部門 経過報告
P 7	ベラルーシ国立科学アカデミー放射線生物学研究所におけるEMの研究報告
P 8	【住宅事例1】 EM柴田農園 (栃木県・那須塩原市)
P 9	【住宅事例2】 EMとじょうろの会 (いわき市)
P 10	【農業事例1】 コズモファーム (田村市)
P 11	【農業事例2】 石合集落改善組合 (福島市)
P 12	【農業事例3】 馬場EM研究会 (南相馬市)
P 13	【畜産事例1】 瀧澤牧場 (南相馬市)
P 14	【福祉施設事例1】 社会福祉法人慈生会 マ・メゾン光星 (栃木県・那須町)
P 15	【その他事例】 EMオーガグリシステム協議会 (福島市) / エコクラブだて (伊達市) / つきだてエコ暮楽部 (伊達市)
P 16	【その他事例】 hand to hand project kawamata (川俣町) / 大玉村商工会女性部 (大玉村)
P 17	【その他事例】 ファームランドやまろく (二本松市) / 菊地農園 (二本松市) / 社会福祉法人あおぞら福祉会 菊の里 (二本松市)
P 18	【その他事例】 四倉地区保健委員会 (いわき市) / 四倉はまなすの会 (いわき市) / いわきの森に親しむ会 (いわき市)
P 19	【その他事例】 金山自治会「EMの広場」(いわき市) / NPO ヴィヴィドリーサポート センター (南相馬市) / 木幡農園 (南相馬市)
P 20	【その他事例】 NPO EM・エコ郡山 (郡山市) / NPO 福島農業復興ネットワーク/ ミネロファーム (郡山市・福島市)
P 21	【その他事例】 学校法人エムポリウム学園 (郡山市) / 中田エコファーム (郡山市)
P 22	EM災害復興支援プロジェクト 復興推進EMモデル事業 参加団体一覧
P 23	U-ネット 入会のご案内

U-net E M災害復興支援プロジェクト概要

本日は第2回環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス」にご来場くださり、誠にありがとうございます。日頃から当NPO復興支援プロジェクトに対し、多大なご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

1. 概要

本プロジェクトは、EMを用いた環境修復活動に取り組みたいという、被災地からの要望に応える形で発足いたしました。

震災直後は、津波による汚染や魚介類の廃棄処理など、主として劣悪な衛生環境の改善にEMを活用し、臭気の軽減、ハエの減少などの効果を得ています。

また、EMを用いた農地塩害対策にも取り組み、津波被災直後の圃場で田植えを行い、平年並みの収量を上げることが出来ました。

現在は、この事例集で紹介しておりますように、支援の対象を放射能汚染が深刻な地域に絞り込み、EMを用いた放射線量の低減化や農作物への放射性物質移行抑制に取り組んでいます。

2. 活動資金について

「EMを活用した復興支援活動に役立ててください」と、世界中のEM関係者からご寄附を頂戴いたしました。これまでの支援金（寄附）総額は以下の通りです。

37,095,748円 469件（2013年10月15日現在）

ご支援くださいました皆様へ心から御礼申し上げます。

また、比嘉照夫教授から著書「シントロピーの法則」の発行権を無償で譲り受け、この売上収益金も全て支援金として充当しています。

「シントロピーの法則」の販売累計は、10月15日現在 13,141冊となっています。



ついに出版！
究極の放射能汚染対策と
東日本大震災復興への道筋
シントロピー【蘇生】の法則
定価 1,000円

※この著書の売上収益金はEM災害復興支援プロジェクトの活動費に充てられています。

3. 支援金の支出概要

活動に取り組む皆さまが安心して大量のEMを散布できるよう、百倍利器をはじめとするEM培養装置の貸与を行っています。また、他府県の皆さまが被災地へボランティア作業に赴く際の交通費、無償提供いただいたEMボカシなどの輸送費などが主な支出内容となっています。

支援金は現地活動に直接関わる事項にのみ充当し、人件費、事務手数料など管理費には一切使用しておりません。

なお、支出の大部分を占めるEM培養装置の導入（無償貸与）については、これまで福島・栃木両県あわせて 34 力所となっています（従前からEM活動をしていた団体と合わせると 39 団体となります）。

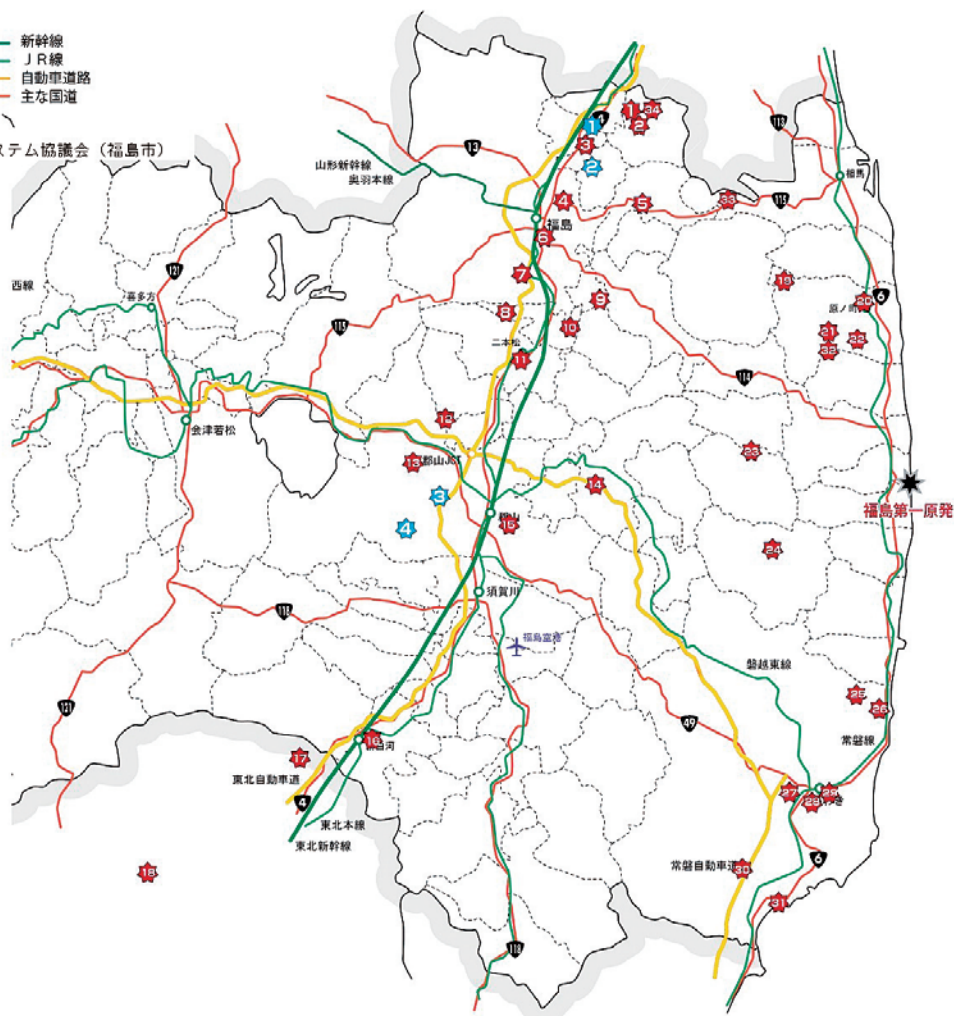
※EMを用いた放射能低減化に取り組みたい方は、是非当NPOへご連絡ください。連絡先は巻末にございます。

福島県

新幹線
JR線
自動車道路
主な国道

★ マクタアメニティ(株) (伊達市梁川町) / EMオーガアグリシステム協議会 (福島市)
★ エコクラブだて (伊達市)
★ エムポリウム学園 (郡山市)
★ NPO EM・エコ郡山 (郡山市)

★ 一條果樹園 (伊達市梁川町)
★ 伊達市商工会女性部 (伊達市梁川町)
★ 粟野自治会 (伊達市)
★ 福島EMクラブ (福島市)
★ つきだてエコ倶楽部 (伊達市月舘町)
★ 石合集落改善組合 (福島市)
★ ミネロファーム (福島市)
★ ファームランドやまろく (二本松市)
★ hand to hand project kawamata (川俣町)
★ 菊地農園 (二本松市戸沢)
★ 社会福祉法人あおぞら福祉会 (二本松市安達ヶ原)
★ 大玉村商工会女性部 (大玉村)
★ 郡山EMグループ (郡山市)
★ 船引町商工会女性部 (田村市船引町)
★ 中田エコファームの会 (郡山市)
★ NPO チーム青い空 (白河市)
★ マ・メゾン光星 (栃木県那須町)
★ EM 柴田農園 (栃木県那須塩原市)
★ 渡部農園 (南相馬市)
★ NPOヴィヴィドリーサポートセンター (南相馬市)
★ 馬場 EM 研究会 (南相馬市)
★ 木橋農園 (南相馬市)
★ コスモファーム (田村市都路町)
★ EM 堀本農園 (川内村)
★ 四倉地区保健委員会 (いわき市)
★ 四倉はまなすの会 (いわき市)
★ 内郷商工会女性部 (いわき市)
★ EM とじょうろの会 (いわき市)
★ U-ネットいわき (いわき市)
★ いわきの森に親しむ会 (いわき市)
★ 金山自治会 (いわき市)
★ 澁澤牧場 (南相馬市) / 伏見牧場 (南相馬市)
★ 工藤農園 (相馬市)
★ フルーツハウス SAKAI (伊達市)



4. グループ企業からの支援

被災地での活動に必要なEM資材は、株式会社EM研究機構様、ならびに株式会社EM生活様から全て無償で提供いただいています。

この支援は現在も継続しており、本プロジェクトへ提供いただいた資材の累計は以下の通りとなっています。

提供先	EM・1	EM・2	EM・3	糖 蜜
岩手県	2,450 l		30 l	11,052 l
宮城県	1,034 l	32 l	592 l	1,355 l
福島県	3,210 l		5,151 l	20,158 l
その他	480 l		1,460 l	2,376 l
合 計	7,174 l	32 l	7,233 l	34,941 l

2013年10月15日現在

5. 付記 (お願い)

当NPOは、今後も「うつくしまEMパラダイス」実現を目指し、本プロジェクトを継続して参ります。引き続きご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆お振込先◆

ゆうちょ銀行

【名義】 NPO法人地球環境共生ネットワーク

【振替口座】 00130-2-338341

EM研究機構 復興支援プロジェクト 研究部門 経過報告

1. はじめに

福島第1原子力発電所事故から2年8カ月が経とうとしているが、放射性物質で汚染された農地の除染は、一部の地域が完了したものの、仮置き場の確保の問題等から当初の計画より大幅に遅れている。表土を除去せずに放射能を低減する技術が開発、確立されれば福島県の農業復興に大きく寄与できる。

放射能汚染対策に有用微生物群 (EM) を用いる研究は、1990 年代後半にベラルーシ共和国にて実施され、EM散布により土壌中の放射性物質の農作物への移行が抑制される効果が報告された。また、EM散布した農地では放射線線量が減少したという事例も認められた。

このような経験を基に、我々は平成 23 年 5 月より福島県にて、EM栽培農家の農作物や土壌中の放射性 Cs 濃度の調査、EMによる農作物への放射性 Cs の移行抑制試験及び汚染農地における放射能汚染の低減化試験を実施している。1 年目の成果については去年の事例集で報告したが、以下にその後の経過を報告する。

2. 農地における放射能汚染低減化試験及び調査

EMによる放射能汚染の低減化を検証するため、飯舘村のブルーベリー農園 (約 20a) にてEM活性液を定期的に散布し試験を行った。試験開始直後の土壌の放射性 Cs 濃度は、土壌 1kg 当たり約 20,000Bq であったが、2 か月後には約 5,000Bq/kg まで減少し、約 75%の低下が認められた。この時、深さ 15-30 cmの土壌の放射性 Cs 濃度は約 250Bq/kg であり、降雨による土壌深部への浸透・流出による低下ではないと考えられた。一方で、本試験ではEM処理区に隣接した対照区においても、放射性 Cs 濃度の約 75%の低下が認められた。対照区でも放射性 Cs 濃度が低下した理由は現在でも検討中である。しかしながら、自然放置して土壌中の放射性 Cs が短期間で 75%も減少する事象はこれまで報告されていないこと、15 年以上に渡りEMやEM発酵堆肥を活用し土づくりを行ってきた農家 (果樹園、畑作、水田) の土壌の放射性 Cs 濃度の推移の調査結果 (図1) でも、理論上の減衰値よりも放射性 Cs 濃度が低下していることから、我々は土壌中の有用微生物の活性が放射性 Cs の低減になんらかの影響を及ぼしていると考えている。

飯舘村の試験圃場では平成 24 年も春から秋まで試験を継続したが、放射性 Cs 濃度は増減があったものの 5,000-8,000Bq/kg 付近で推移した。平成 25 年は、飯舘村で政府による本格的な除染が開始されたことから、同試験圃場におけるEM活性液の散布と測定を休止している。

3. EM施用による放射性物質の移行抑制試験

平成 23 年度に福島県農林水産部が実施した実証試験事業において、EMオーガングリシステム標準堆肥施用区は、無処理区、対照区 (塩化カリウム) と比較して放射性 Cs のコマツナへの移行が有意に抑制されたことが報告された。同報告書では移行抑制の機序として、堆肥による土壌中の交換性カリウム含量の増加が原因ではないかと考察されていた。我々は堆肥由来の交換性カリウムの効果とは別に、微生物の働きも放射性 Cs の移行抑制に影響を及ぼしていると考え、プランターに汚染土 ($^{134}\text{Cs}+^{137}\text{Cs}$:12,000Bq/kg) を入れ、堆肥を用いずにコマツナを栽培し、EM施用が放射性 Cs の農作物への移行抑制に及ぼす効果を検証した (図2)。EM区はEM活性液 1% 希釈液を、対照区は水を適時灌水した。コマツナから検出された放射性 Cs は、対照区が 37.0 Bq/kg に対しEM区は 14.5 Bq/kg で、放射性 Cs の移行が有意に抑制された。移行係数で比較しても対照区の 0.00313 に対し、EM区は 0.00118 で、放射性 Cs の移行が 62%抑制された (図3)。材料として用いたEMのカリウム含量は 0.1~0.2%とわずかなことから、EMによる放射性 Cs 移行抑制機序はEM中の水溶性カリウムの効果ではなく、別の機序が存在することが示された。ベラルーシ国立放射線生物学研究所との共同研究では、EMやボカシの施用により、水溶性 Cs、イオン交換態 Cs などの根から吸収容易な Cs の割合が減少し、有機物結合態 Cs、粘土鉱物結合態 Cs 等の根から吸収困難な Cs の割合が増加することを認めた。従って、EMによる土壌改良は、根から吸収容易な放射性 Cs の割合を減少させる作用があり、その結果、農作物に移行する放射性 Cs が減少したと考えられる。

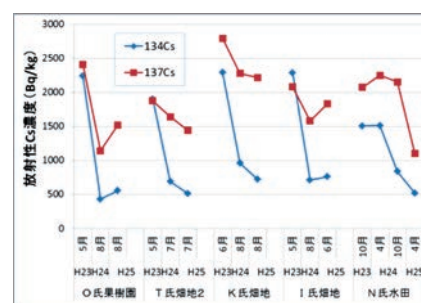


図1. EM栽培の果樹園、畑地、水田における土壌中の放射性 Cs 濃度の経年推移



図2. ハウス内プランター試験の様子

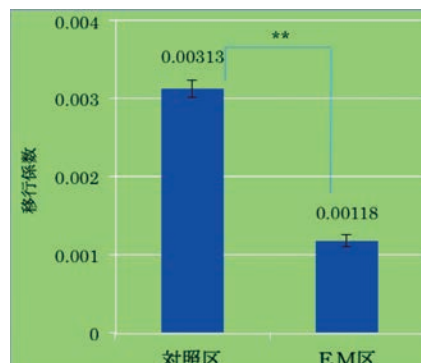


図3. EM施用による放射性 Cs の移行抑制効果
** : 1%水準で有意差あり (Scheffe's F test)

ベラルーシ国立科学アカデミー放射線生物学研究所におけるEMの研究報告

【経緯】1986年に起こったチェルノブイリ原子力発電所事故は、ベラルーシ共和国の国土の7割を放射性物質で汚染し、住民の健康に甚大な影響を及ぼした。国内における放射能の汚染程度や拡散状況の把握、人体や生態系に対する影響などを科学的に調査・評価する必要性から1987年にベラルーシ国立科学アカデミー放射線生物学研究所が設立された(図1)。同研究所とEM研究機構との関係は古く、1996年～1999年にかけてEMによる放射能汚染対策に係る共同研究が実施され、放射性物質で汚染された農地にEMを散布することにより、土壌中の ^{90}Sr の作物への移行が抑制されることなどが報告された。



図1. ベラルーシ共和国 国立放射線生物学研究所

しかしながら、研究を牽引してきた初代所長のコノプリア博士が死去した後は両機関の関係が希薄になったが、同研究所では独自にEMの研究を継続していた。福島第一原子力発電所事故をきっかけに、EMによる放射能汚染対策に関する研究を推進するために、2011年に共同研究プロジェクトを再開した。主な研究テーマは、①様々な農作物への ^{137}Cs 及び ^{90}Sr の移行抑制、②放射性物質の農作物への移行抑制メカニズムの解明、③農作物への重金属の移行抑制、④土壌中の放射性物質の低減化、⑤内部・外部被ばくに対する保護効果である。

【最近の研究結果】2011年10月13日～14日にベラルーシ共和国のゴメリで開催された国際科学会議「放射能とチェルノブイリ：科学と実証(International Scientific Conference "Radiation and Chernobyl: Science and Practice)において、EM散布による土壌中の ^{90}Sr や ^{137}Cs の様々な農作物への移行抑制効果について発表がなされた。

また、2012年11月8日に福島県で開催された環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス」では、上記国際会議発表された内容に加えて、EMやボカシの施用には、植物の根から吸収容易な水溶性Csの割合を減少させ、吸収が困難な形態のCsの割合を増加させる作用があり、その結果、植物体に移行するCs量が減少した

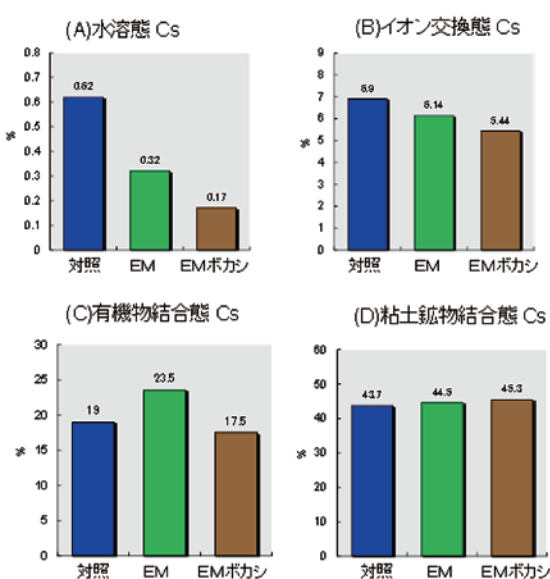


図2. EM及びEMボカシが土壌中の ^{137}Cs の存在形態に及ぼす影響

ことが報告された(図2)。

本年2013年9月26日～27日にベラルーシ共和国で開催された国際科学会議「放射能、環境と技術圏(International Scientific Conference "Radiation, Environment and Technosphere)において、同研究所の研究者らにより、放射能汚染対策だけでなく農業や畜産分野においてもEMが試験的に導入され成果を上げていることが報告された(図3)。



図3. ベラルーシ研究者らによるEMの研究発表

地域にEM情報発信、家庭菜園等での活用を推奨

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

EM柴田農園

柴田和明

百倍利器200×1台（2012年4月）

サンバルク#1000TC（1tタンク）×2台（2012年4月）

4,000L/月

2012年から継続してEMを散布し、農産物への放射性物質の移行抑制、ならびに住居周辺の放射線量低減化に取り組んできた。今年は7月上旬に市の除染作業が入ったため1ヶ月近くEM散布が滞ったが、8月からは自宅へのEM散布を毎日行っている（10倍に希釈したEM活性液を300L）。これにより7月末から8月末の1ヶ月間で空間線量が0.1μSV/hほど低減した箇所も見受けられた（グラフ参照）。

また、地域の方々へのEMの情報発信も継続しており、近隣だけでなく、那須や大田原など遠方から活性液をとりにくる人も増えてきている。現在EM活性液の提供先は20軒ほどあるが、柴田さんは放射能低減化だけに目を向けるのではなく、EM本来の良さを理解してもらうために、家庭菜園や家庭内でEM活用することを推奨している。

特に安心安全な野菜を自ら確保する観点から家庭菜園へのEM活用を勧めており、化学薬品を用いない家庭菜園実践者が着実に増えてきている。

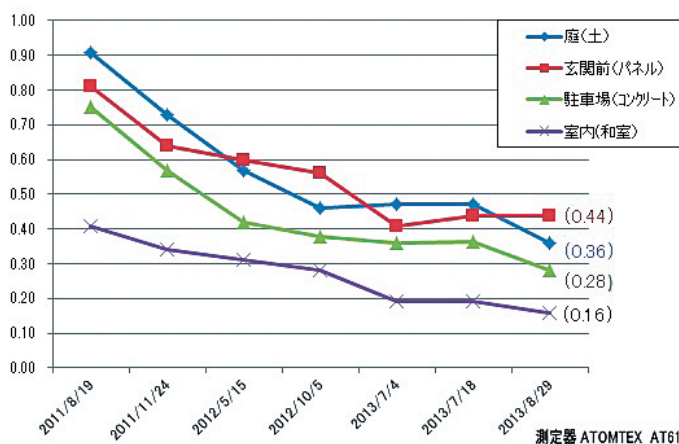
なお、ご自身の農園で栽培された農作物の放射性物質は、すべて検出限界以下となっている。



写真左上：ピーマンは節間がしっかり詰まっている

写真中：良く実ったミニトマト

写真右上：農園でのEM散布



グラフ：線量推移



写真右下：活動に取り組む仲間

活性液散布の継続により更なる放射線低減を目指す

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

EMとじょうろの会

久呉ますみ

百倍利器100×1台（2011年9月）

サンバルク#1000TC（1tタンク）×1台（2012年10月）

5,000～6,000L/月

地域の主婦20名が集まり、住宅地の除染を目的にEM散布を行っている。活動開始当初は試行錯誤の連続だったとのことだが、2年が経過し、会員全員が「続けてよかった」、「線量が下がった」という実感を持つに至っている。

同地区は比較的線量が低く更なる低減化は難しいと思われていたが、EM散布を継続することで散布していない宅地より4割ほど線量が低くなってきている。また、同地区では強風や豪雨のあと線量の上昇傾向がみられるが、EM散布を行っている住宅では線量の再上昇が起こりにくいという効果も表れており、土地自体がイヤシロチのようになったと実感している。

新たな取り組みとして、今年から市内四倉町の住宅地でのEM散布にも協力するようになり、EM散布当初は $2.3\mu\text{Sv/h}$ あった場所が、毎週80LのEM活性液を散布したところ3ヶ月で $1.3\mu\text{Sv/h}$ まで減少した。

さらにこの秋からは、四倉はまなすの会と共同で、EM団子とEM活性液を併用し町内の雑木林の放射線量低減化の試みも開始している。



写真左上：EM活性液と団子の併用を試みている雑木林

写真右上：海の日EM一斉投入にも参加



写真左下：EM活性液の取り出しと仕込み作業



写真右下：四倉はまなすの会との共同作業

「心と大地に花を植えています」をテーマにEM活用を実践

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

コズモファーム

今泉智

サンバルク#1000TC（1tタンク）×42台（2011年10月～2012年5月）

99,000～5,000L/月

福島第一原発から20km圏内であるが、事故後も継続して自宅に留まりEMと共に生活を営んでいる。今年に入ってから、避難指示解除準備区域に指定されていたコズモファーム周辺地域は、特例により自宅での宿泊が認められるようになった。

しかしながら、自宅へは帰らず仮設住宅で暮らし続ける住民が未だにほとんどである。EMによる放射線量低減化について地域への普及を試みたが、除染は全て国の責任で解決するという見解が多く、自らの問題として行動喚起するには至らなかった。

当初は自宅周辺のみでEM散布であったが、周囲の山林一帯を除染しないと確実な線量低減化が難しいと判断し、32haにEM散布を実施していた。しかし、国の除染作業が入ったため、一帯の散布を一時中断し、今年は「心と大地に花を植えています」をテーマに自宅を草花で美しく飾ると共に、EM栽培の美味しい野菜を育て自然と共生した生活を楽しもうと方向転換した。EMが従来活用されてきた用途に徹し、結果として線量も低減している状況を見てもらった方が周囲への波及効果があるとの考え方である。現在も毎日100倍程度に希釈したEM活性液を約3t散布し、元気な植物に囲まれて暮らしている。

EMによる空間線量の低減効果も確信しており、自宅周辺の空間線量は現在0.3 μ Sv/h付近で安定している（EM散布開始当初は1.0 μ Sv/h前後）。

このような取り組みに少しずつではあるが周囲の賛同を得られるようになってきており、今年は近隣に水田をもつ生産者へ呼びかけ、三年ぶりに稲作が再開された。稲作再開にあたっては2月に比嘉教授を招いた勉強会を開催すると共に、EM活性液はコズモファームから無償で生産者へ提供された。

この三年振りの田植えのニュースは、時事ドットコムを始めとする複数のWEBサイトで紹介されると共に、収穫の様も地元新聞に取り上げられた。

■msn産経ニュース

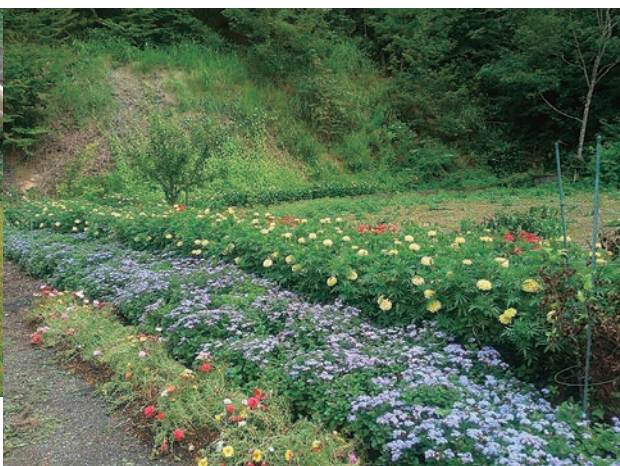
<http://sankei.jp.msn.com/life/news/130518/trd13051812260009-n1.htm>

■福島民友ニュース

http://www.minyu-net.com/news/photo/1009/photo_news.html



写真左上：EMを与えると通常より10日ほど産卵開始が早まった



写真左下：収穫直前のコズモファームの稲

写真中：自宅周辺を花で飾る。EMを活用すると花付が素晴らしい



写真右：井戸にEMセラミックスを投入する坪井夫妻（米生産者）

稲の生育面で効果を実感、本格導入

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

石合集落改善組合

佐藤清一

百倍利器200×1台（2013年4月）

サンバルク#1000TC（1tタンク）×6台（2012年3月、2012年7月、2013年4月）

10,000L/月

石合集落改善組合は、稲作を中心に大豆、野菜、果樹栽培などを営む13名の生産者からなる集落営農共同体である。

EMの活用は2012年、主に稲作から着手した。この結果、稲が丈夫に育つこと、白米のセシウム濃度が検出限界（1Bq/kg）以下になったことなどが確認され、2013年からは本格的にEMを導入することにし、3月には比嘉教授を招き勉強会を開催した。本年は約4町歩の水田に、月に1回150L/10aのEM活性液を水口から流し込みで施用した。その結果、穂が大きくなり玄米のつやがよかった。

今後は稲作以外にもEMの多様な効果を引き出せるよう積極的に研鑽を積んでいる。



写真左上：EM活性液仕込みの様子

写真右上：EM培養装置



写真左下：EM活性液を投入した水田

写真右下：今年の稲穂。穂が大きく玄米のつやもよかった

憩いの場を放射能対策、水稻栽培にも取り組む

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

馬場EM研究会

羽根田薫

百倍利器200×1台（2012年4月）

サンバルク#1000TC（1tタンク）×7台（2012年6月、2012年8月）

10,000L/月

地元の憩いの場となっていたグラウンドゴルフ場の放射能汚染対策として、2012年4月から40名の会員でEM活性液の散布に取り組んだ（当時1t×2回/月）。開始後5ヶ月で地表面の線量が $1.2\sim 1.3\mu\text{Sv/h}$ から $0.6\mu\text{Sv/h}$ に減少。会員の住宅にもEM活性液を定期的に散布したところ、 $1.0\sim 2.0\mu\text{Sv/h}$ あった地点が半年でおおよそ半分まで減少した。

これらの成果からEMの効果に確信をもち、試験的な水稻栽培を開始しEMによる放射性セシウムの移行抑制効果の確認を行ったところ、慣行栽培の対象区の玄米が80ベクレルあったのに対し、EM処理区の玄米は20ベクレルまで抑制された。この時のEM使用方法は、EM活性液を毎月1回（100L/10a）水口より流し込むという簡単な処理である。

2013年は植え付け前からEM活性液を散布、田植え後は、2haの水田に毎月500Lの流し込みも行った結果、生育が非常に良好であった。

また、イノシシ対策としてEM活性液を入れたペットボトルを圃場周囲に設置するなど、新たな試みにもチャレンジしている。



写真左上：イノシシ対策として設置したEM活性液のボトル

写真右上：住宅へのEM散布



写真左下：水田用に培養したEM活性液

写真右下：田植え直後の水田の様子

飼料添加で好結果、粗飼料100%自給を目指す

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

瀧澤牧場

瀧澤昇司

ローリータンク（100L）×2台（2012年9月）

ローリータンク（200L）×1台（2012年9月）

1,000L/月

2012年4月から試験的にEMを導入。その効果を実感し同年秋からは全頭へEM活用を開始する。主な使用方法は、EM活性液の飼料への添加と畜舎の床への散布とシンプルであるが、臭気軽減、ハエの減少、乳質の安定化など多くの成果をあげている。

また、EM処理したスラリーの効果を確認するため、牧草栽培において土壌ならびに収穫物中の放射セシウム濃度を化学肥料区と比較したところ、EMスラリー区で良好な結果を得た。

この結果で瀧澤氏は更にEMの効果に自信を強め、今後は震災以前同様、粗飼料を100%自給できるよう日々EM技術の研鑽に励んでいる。

これまで得られた成果は管内同業者へ広く公開し、自らの事業だけでなく、地域の畜産業復興を目指しEM技術の普及を行っている。

瀧澤氏の呼び掛けに応じ、最近では近隣の肥育牛生産者がEMを導入するに至っている。



写真左上：小さいタンクを2個交互に使用し、常に新鮮な活性液を与えるようにしている

写真右上：瀧澤氏の呼び掛けでEM活用を開始した伏見牧場（肥育牛）



写真左下：EM処理したスラリーを圃場に還元することで、牧草へのセシウム移行抑制効果に手応えを感じている

写真右下：飼料へEMを散布し牛に与えている

多方面の農産事業にEMを活用し、効果を実感

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

社会福祉法人慈生会 マ・メゾン光星

施設長 西部雅昭

サンバルク#1000TC (1tタンク) ×2台 (2012年4月、8月)

1,700L/月 (年間約20t)

EMを活用しはじめて2年目の取り組みとして、施設内のEM活用用途拡大を図るため、2月に沖縄へ視察研修を行った。ホテルコスタビスタ沖縄でのEM活用と同自社農園における生ゴミリサイクル、北中城村障害者地域活動センターあざみにおける廃油石けんづくり、みやぎ農園の平飼養鶏などを見学する。

早速施設に持ち帰り実践に移したところ、EMの汎用性の高さと効果を改めて実感した。特に養鶏においては、これまでEM活性液を散布するだけであったが、みやぎ農園のアドバイスに基づきエサにEMボカシを添加するなどの改善措置を施したところ、鶏の毛並みが良くなると共に鶏同士のケンカも無くなり、鶏卵の品質も向上するなど顕著な改善効果が得られた。

一方でこれまで大きな収益源となっていたシイタケ栽培は、自伐原木の汚染により県から出荷制限の対象となっている。県のガイドラインに則った栽培法に取り組む一方、EMを用いたホダギの放射性物質濃度の低減化も試行しているが、以前と同様の収益を見込むには厳しい状況にある。

このため新たに花卉栽培を手掛けるなど、他の収益源確保に向けた取り組みに着手している。

また、EMボカシの製造も定期的に行えるよう組織化し、講習会を開催するなどして地域への普及にも取り組んでいる。



写真左上：ホダギをEM活性液で洗浄

写真中：沖縄サンシャインファームを視察

写真右上：新たに着手した花卉栽培

写真左下：石けんづくり

写真右下：毛並みが良くなった鶏

福島県福島市

安全・高品質な農産物の生産と供給

■活動グループ

■責任者

■活動概要・成果など

EMオーガアグリシステム協議会

幕田武広

EMオーガアグリシステム協議会は、福島県内の農業生産者等で作られた有機循環農業の実践者団体から出発。EMで発酵した有機性廃棄物を農業生産に取り入れたところ、生産量が増加し、かつ品質の向上が見られたことから技術の体系化を行った（EMオーガアグリシステムを商標登録）。

当該農法によって生産された主に青果物を「EMオーガアグリシステム」としてブランド化。一連の活動の中から該当する「堆肥供給者」「流通管理」も協議会の構成員として内包する。

風評被害の発生以前は「高級ブランド品」として主に首都圏の百貨店・高級スーパー・有機専門店等で定番商品となり、有名料理人の評価も高い。

福島県のCs移行抑制試験でも、当農法標準たい肥の施用だけで塩化カリ施肥区の1/3程度に移行を抑制、しかも食味、収量に圧倒的な有意差が確認されている。



EMオーガアグリシステムにより栽培されたレタス（写真上）と菜花（写真下）の収穫作業

福島県伊達市

環境浄化、住環境の放射線量低減化

■活動グループ

■責任者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

エコクラブだて

遠藤稔

EM培養装置500Lタイプ×1台（2011年4月/福島市）

EM培養装置400Lタイプ×1台（2011年6月/南相馬市）

500Lタンク×3台（2012年4月/伊達市）

300Lタンク×2台（2012年4月/相馬市・伊達市）

1,000L/月

河川浄化活動に取り組んでいたが、震災以降は住宅地の放射線量低減化に重点を置き、除染希望者には自宅まで足を運びEM散布を行ってきた。今年は、伊達市梁川町・栗野自治会と協働での長沼水質浄化プロジェクト、福島市の町内会との協働による下水側溝浄化作戦の他、EMによる有機農業への挑戦など、さらに活動の場を広げている。



写真上：除染希望者の自宅だけでなく、自宅前のお宮など周囲にもEMを散布



写真左：栗野自治会と協働で長沼に投入するEM活性液を培養

福島県伊達市月舘町

生活環境の改善

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

つきだてエコ暮楽部

渡辺マサ子

百倍利器100×1台（2011年8月）

400L/月

市民や5カ所ある地区内の公共施設にEM活性液を無償配布し、掃除や家庭菜園など日常生活でのEM活用を図っている。また、河川浄化や学校プールへの投入に取り組むなど、年を経るごとにその活動は地区内に浸透している。



写真上：月舘中学校のプールに活性液を投入したメンバー



写真左：河川への活性液投入

福島県伊達郡川俣町

生活環境の改善、安全・高品質な作物生産および土壌改良

■活動グループ

■責任者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

hand to hand project kawamata

阿部華美

百倍利器200×1台（2012年6月）

1tタンク×1台（2012年5月）

500Lタンク×4台（2013年8月）

300Lタンク×1台（2012年6月）

200Lタンク×1台（2013年8月）

3,000～4,000L/月

希望する住民にEM活性液を配布し、日常生活の中でのEM活用に取り組む一方、安全で高品質な地場作物の生産につなげようと、地域の希望農家にもEM活性液を配布している。配布先では活性液を5～10倍に希釈し庭や畑に散布しているが、菜園ではEMぼかしとともに散布した後耕耘している。活動の結果、活性液配布先からは「ミミズが増え、土がふかかになった」「スズメが砂浴びに来るようになった」などの声が届いている。今後もEM散布による土壌改良を継続するとともに、自然のためにできることを頑張っていく。



写真左：EMを培養中のタンク

写真右：自宅敷地内へのEM活性液散布



福島県安達郡大玉村

生活環境の改善、池・河川の浄化

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

大玉村商工会女性部

押山広美

百倍利器100×1台（2011年8月）

サンバルク#1000TC（1tタンク）×1台（2011年8月）

500L/月

大玉村ふれあい村民の森にある池や安達太良川へのEM活性液投入など、池・河川的环境浄化に取り組むとともに、会員や施設にEM活性液を配布しており、日常生活の中でのEM活用に取り組んでいる。



写真左：大玉村ふれあい村民の森の池へのEM活性液投入

写真上：大玉村商工会女性部、本宮市商工会女性部、Mot.comもとみやの3団体合同で年3回実施している安達太良川へのEM活性液の投入

福島県二本松市

作物への放射性物質移行抑制、安全・高品質な作物の生産

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

ファームランドやまろく（農業資材店）

佐藤康毅

百倍利器200×1台（2012年4月）

サンバルク#1000TC（1tタンク）×7台（2012年4月・2013年4月）

1,000～4,000L/月

作物への放射性物質移行抑制に着目し、安全で高品質な地場の作物生産を図り地元住民に提供しようと積極的なサポート活動を行っている。

今年度は7名の生産者にEM活性液の培養を委託。ここを拠点に、近隣住民に配布を行った。また、ペットボトルにEM活性液を入れ農地に置くことで、ネズミ・モグラ・ハクビシンなどによる農作物への獣害が抑制されたとの評判が地域内につたわり、EM利用者の増加に役かっている。



EMを活用した水田ではサギが見られた



佐藤康毅代表

福島県二本松市

安全・高品質な農産物の生産

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

菊地農園

菊地睦雄

百倍利器200×1台（2013年5月）

サンバルク#1000TC（1tタンク）×2台（2013年5月）

500Lタンク×3台（2013年5月）

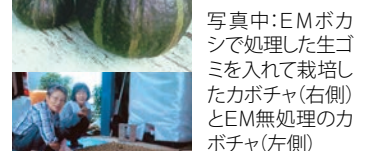
300Lタンク×2台（2013年5月）

4,000L/月

震災以前からEMボカシを用いて安全安心な農産物生産を行ってきた。今年度は、より一層子供たちが安心して食べられる食料を生産するとともに思い切り外で遊べるよう、放射線量低減化を狙い農地および住宅環境へのEM活性液散布やEM団子の投入を積極的に行っている。今年度は農産物の品質面での効果を実感している。



写真上：水田へのEM活性液の散布作業



写真中：EMボカシで処理した生ゴミを入れて栽培したカボチャ（右側）とEM無処理のカボチャ（左側）

写真下：EM団子も作り、水路などに投入

福島県二本松市

防災調整池の環境浄化、土壌改良

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

社会福祉法人あおぞら福祉会 菊の里

遠藤重孝

培養機（EMオート60）×1台＜大玉村商工会女性部貸与（2012年11月）＞

250L/月（1次培養）、25,000L/月（2次培養）

事業所敷地内にある防災調整池の悪臭対策として、今年5月からEM活性液とEM団子を投入している。その結果、調整池にカエルが戻ってきたのを確認した。また、刈り取った農地の雑草の堆肥化にもEMを活用し、堆肥は事業所の農地やバラ園に投入して土壌改良を図っている。さらに、二本松法人会の紹介により、プール清掃のため、市内11校の学校プールにEM活性液を100Lずつ投入することが決まっている。



防災調整池へのEM団子投入



EMぼかしの製作用業

福島県いわき市

河川・用水の浄化

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

四倉地区保健委員会

長谷川直恵

百倍利器200×1台（2013年6月）
サンバルク#1000TC（1tタンク）×3台（2013年6月）

3,000～6,000L/月

長年にわたり地区内を流れる蜷川、境川を中心に浄化活動を行ってきた。東日本大震災の津波被害により活動休止を余儀なくされたが、2012年に再開した。今年、支援によって培養設備が設置されたことにより活動が活性化している。夏場は月2回6t、それ以外の季節は月1回3tを上記河川と用水等に投入している。作業は、地区長を中心に44名の会員が行う。



河川へのEM投入のため百倍利器と培養タンク設置場所から活性液を運びだす

福島県いわき市

住宅地及び山林の放射線量低減化、河川浄化

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

四倉はまなすの会 協力者：EMとじょうろの会

長谷川貞子

500Lタンク×1台（2013年6月）

2,000L/月

今年6月から、住宅地の放射線量の低減化に重点を置いて、会員各々の自宅を中心にEM活性液散布を実施している。7月中旬からはEMとじょうろの会代表の久呉ますみ氏のアドバイスを受けながらEM団子をつくり河川浄化活動を始めたほか、原発避難仮設住宅に毎週EM活性液30Lを配布している。さらに9月中旬からは、放射線量が高い杉林の線量低減化を図るため、杉林へのEM団子投入と活性液の散布を組み合わせた新しい方法を試みるなど、積極的に活動している。



写真上：メンバーによるEM団子づくり



写真中：河川へのEM団子の投入

写真下：放射線量の高い杉林へのEM活性液の散布

福島県いわき市

池の環境浄化、緑地・公園における放射線量低減化

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

いわきの森に親しむ会

松崎和敬

百倍利器200×1台（2011年8月）

800L/月

いわき市の湯の岳山荘周辺の放射線量低減化を図るため、EM活性液の散布を行ってきたが、放射線量が落ち着いてきたため、今年度は新たに山荘敷地内にある池の環境浄化にも取り組み、ヘドロ内に通したパイプからEM活性液を投入するなどの方法を試験している。



写真上：山荘周辺へのEM活性液散布作業

写真下：敷地にある池のヘドロに通したパイプからの活性液の投入

福島県いわき市

排水の浄化、農地の土壌改良

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

金山自治会「EMの広場」

遠藤政喜

サンバルク#1000TC（1tタンク）×1台（2011年8月）
300Lタンク×3台

2,400L/月

長年にわたり、地域の排水浄化に取り組む一方、110回以上にわたるEMに関する勉強会を開催してきた。昨今は、勉強会を兼ねてEMボカシ堆肥を作り農地に還元する活動を行なっている。また腐葉土を作るための堆積場の放射線量低減化にも取り組んでいる。



写真上：EM団子作りのため集まった金山自治会のメンバー

写真下：EM活性液の散布作業

福島県南相馬市

生活環境の改善

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

NPOヴィヴィドリーサポートセンター

武藤麻央

百倍利器100×1台（2011年7月）
300Lタンク/EM散布用×2台（2012年3月）

200～300L/月

Uネット福島県世話人として、日常的なEM活用の普及と指導を積極的に行っている。今年度は、EMを活用して自ら栽培した地場野菜を地域住民に提供する計画を立て、現在準備中である。一方、放射能低減化の取り組みとして、学校関係者や農業従事者にEM活性液を提供し、それぞれが職場や住宅等に散布している。



武藤麻央さん

福島県南相馬市

休耕地の土壌改良及び放射線量低減化

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

木幡農園

木幡信雄

百倍利器200×1台（2013年6月）
サンバルク#1000TC（1tタンク）×2台（2013年6月）

400L/月

木幡農園では震災以前からEMボカシを活用した稲作（EM栽培は1町分ほど）に取り組んでおり、地域の人達と一緒にボカシ作りを行うなどEM技術の普及を行ってきた。小高区は農業の再開は見通しが立たない状況ではあるが、EMによる放射線量の低減について自分が実証して地域への活用を進めるために今年度より住宅の周辺（約300坪）にEM活性液の散布を開始し、線量の変化などを調査している。農業の再開が可能になった場合にはさらに大量に培養し全面的にEM技術を活用する予定。



写真上：敷地内へのEM活性液散布

写真下：木幡信雄さん

福島県郡山市

池・河川・学校プールの浄化

■活動グループ

NPO EM・エコ郡山

■代表者

武藤信義

■使用機材 (導入年月)

百倍利器200×2台 (2003年4月)

百倍利器100×2台 (2003年4月)

1tタンク×4台 (2003年4月)

■EM使用量/月間

2,000L/月

■活動概要・成果など

長年、EM活性液投入による南川・亀田川の水質浄化に取り組み、悪臭除去などの成果をあげている。また、EMに関する講習会や情報交換会を開催するほか、田村市や本宮市、二本松市など約50校の学校プールにEM活性液を投入するなど、地域と連携しながら、郡山市内に限らない広域的な環境浄化活動を行っており、県内の普及啓蒙の拠点として大きな存在となっている。



写真左: EM活性液投入

写真右上: 小学校での勉強会

写真右下: わいわい農園の管理運営

福島県郡山市/福島市

牛舎の臭気対策

■活動グループ

NPO 福島農業復興ネットワーク/ミネロファーム

■代表者/責任者

伊藤房雄 理事長/田中一正 場長

■使用機材 (導入年月)

百倍利器200×1台 (2013年2月)

1tタンク×2台 (2013年2月)

■EM使用量/月間

3,000L/月

(内訳: エサ=40L/日、堆肥20L/日、牛舎内細霧システム=10L/日、食品残渣受入=30~100L/日)

■活動概要・成果など

復興牧場ミネロファームはNPO福島農業復興ネットワークが運営している。牧場では、近隣に対する臭気対策として牛舎内および堆肥舎への散布に加え、乳牛の飼料に使う水分にEMを使用。糖蜜の効果とあいまって餌の食いが良いことから積極的に活用している。牛舎内では直接牛床に散布するほか、細霧システムによる散布も実施している。堆肥舎には朝晩散布し、徹底的な臭気対策を図っている。また、同牧場は視察や研修等来場者が多いため、近隣のみならず来場者も不快に感じないように環境整備を意識している。



写真左: EM入りの飼料。乳牛の餌食いがよいことから積極的に活用



写真中: ショベルローダーを用いてEM活性液をミキサーに投入し飼料と混合する



写真右: 牛床には直接EM活性液を散布する

※NPO福島農業復興ネットワーク (Far-net) では、ご協力いただける賛助会員を募集しています。詳しくは、024-953-6566まで

福島県郡山市

幼稚園における放射能対策

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■活動概要・成果など

学校法人エムポリウム学園

平栗光弘 協力者：NPO EM・エコ郡山

EM活性液培養装置（2次培養用・1t）

2011年6月からEMによる放射線量低減化の試みを実施している。当初、高圧洗浄機で洗浄しても放射線量が下がらなかった園玄関前アスファルトや園庭の一面を対象に実験を行ったところ、EM活性液の散布により低減効果が認められたことから、園庭全面に散布している。

また、幼稚園の協力会社ではEM活性液培養装置を導入し、幼稚園を通じて園関係者や一般の利用者へEM活性液の供給体制を整えている。



写真左：園庭への活性液散布

写真中：園庭で遊ぶ園児たち

写真右：EM活性液希釈用タンクと電動ポンプ

福島県郡山市

安全・高品質な作物の生産

■活動グループ

■代表者

■使用機材（導入年月）

■EM使用量/月間

■活動概要・成果など

中田エコファーム

小川耕一

百倍利器200×1台（2011年10月）
サンバルク#1000TC（1tタンク）×2台（2011年10月）

1,000L/月

農業生産が盛んな地域で希望農家にEM活性液を提供するなど、安全で高品質な農産物生産のためのサポート活動を行ってきた結果、EMを活用している生産者の葉タバコ、野菜で品質の評価が高くなり、EM利用者の増加につながっている。

また、今年度は畜産農家（酪農・肥育）にEMの多面的な有効性（品質向上、環境浄化等）を理解してもらう活動を進めるとともに、堆肥の製造・供給を通して有機循環型農業の構築に取り組んでいる。さらに今後は、家庭内排水、溜め池、防火用水の水質改善により一層取り組みたいと考えている。



写真上：アオコの発生した防火用水にEM活性液を投入

写真左：EM培養タンクの洗浄作業

EM災害復興支援プロジェクト 復興推進EM活用モデル事業参加団体一覧

2013 年 11 月 1 日現在

市町村	団体名	代表者・責任者	主なEM活用項目
-----	-----	---------	----------

●従前からの活動者

福島県郡山市	NPO エコ・郡山	武藤信義	池・河川・学校プールの環境浄化
	エムポリウム学園	平栗光弘	幼稚園の放射能対策
福島県伊達市	エコクラブだて	遠藤稔	環境浄化、住環境の放射能対策
福島県福島市	EMオーガアグリシステム協議会	幕田武広	安全・高品質な農産物生産・供給

●本プロジェクト機材貸与先

福島県南相馬市	NPO ヴィヴィドリーサポートセンター	武藤麻央	生活環境改善
	馬場EM研究会	羽根田薫	農業（水稻）、住宅地の放射能対策
	渡部農園	渡部忠正	農業（水稻・野菜）
	木幡農園	木幡信雄	休耕地の土壌改良・放射能対策
	瀧澤牧場	瀧澤昇司	畜産（酪農）
	伏見牧場	伏見友昌	畜産（肥育）
福島県相馬市	工藤農園	工藤義行	山菜圃場（山林）の放射能対策
福島県いわき市	Uネットいわき	華山芳朗	生活環境改善
	いわきの森に親しむ会	松崎和敬	池の環境浄化、緑地・公園の放射能対策
	EMとじょうろの会	久呉ますみ	住環境の放射能対策
	内郷商工会女性部	鈴木礼子	生活環境改善
	金山自治会「EMの広場」	遠藤政喜	排水浄化、農地の土壌改良
	四倉はまなすの会	長谷川貞子	住宅地・山林の放射能対策、河川浄化
	四倉地区保健委員会	長谷川直恵	河川・用水浄化
福島県伊達市	つきだてエコ暮楽部	渡辺マサ子	生活環境改善
	伊達市商工会女性部	齋藤光子	住環境の放射能対策、農業
	一條果樹園	一條惣一	農業（果樹）
	フルーツハウスSAKAI	酒井武光	農業（果樹）
福島県福島市	石合集落改善組合	佐藤清一	農業（水稻）
	福島EMクラブ	佐藤和幸	生活環境改善
福島県二本松市	ファームランドやまろく	佐藤康毅	作物の放射性物質移行抑制、安全・高品質な作物生産
	菊地農園	菊地睦雄	農業（水稻他）
	社会福祉法人あおぞら福祉会 菊の里	遠藤重孝	池の浄化、土壌改良
福島県田村市	船引町商工会女性部	栗原信子	生活環境改善
	コズモファーム	今泉智	農業（水稻）、住宅・山林の放射能対策
福島県郡山市	中田エコファーム	小川柊一	安全・高品質な作物生産
	郡山EMグループ	松本美恵子	生活環境改善、住環境の放射能対策
	NPO 福島農業復興ネットワーク（ミネロファーム）	伊藤房雄	畜産（酪農）
福島県白河市	NPO チーム青い空	室井和加子	住環境の放射能対策
福島県川俣町	hand to hand project kawamata	阿部華美	生活環境改善、土壌改良
福島県大玉村	大玉村商工会女性部	押山広美	生活環境改善、池・河川の浄化
福島県川内村	EM堀本農園	堀本雄一郎	住宅・農地の放射能対策、土壌改良
栃木県那須塩原市	EM柴田農園	柴田和明	農地・住宅地の放射能対策
栃木県那須町	社会福祉法人慈生会 マ・メゾン光星	西部雅昭	園内の放射能対策、安全・高品質な農作物生産

U- ネット 入会のご案内

地球環境・共生ネットワーク（U- ネット）は、EM技術を活用した環境浄化に取り組み、生態系と生物多様性を守るという、「人と自然との共生」の思想を実行するNPO法人です。

現在、全国各地の会員が奉仕の精神に基づき、河川や湖沼の浄化、生ごみのリサイクル、自然農法などに取り組んでおり、活動にあたっては、右の詩を行動理念としております。

当NPOの趣旨に一人でも多くの方にご賛同いただき、活動を共にして参りたいと存じます。

ご入会を心よりお待ち申し上げます。

あとかから来る者のために
坂村 真民
あとかから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとかから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾けるのだ
あとかからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくのだ

「見返りを求めないボランティアが世の中を変える」

●会員種別

ご入会にあたっては、会費を必要とするU- ネット会員と、会費を必要としない善循環の輪会員の大きく2種類の会員制度があります。

U- ネット会員

- ・正会員には総会での議決権が与えられます。
- ・会員の活動や優良事例を紹介した「U-net 通信」（A4判カラー4頁）を年5回お届けします。
- ・その他、当NPOが発行するパンフレット等を優先的にご提供いたします。
- ・会員は自動的に善循環の輪会員（無料）にも登録されます。

年会費

	正会員	一般会員	賛助会員
個人	5,000円	2,500円	10,000円/1口×口数
グループ	10,000円	5,000円	
法人	30,000円	15,000円	50,000円/1口×口数

善循環の輪会員

- ・無料で登録いただけます。
- ・EMに関する情報をA4判1枚にまとめた「善循環の輪通信」を月2回メールまたはFAXにて送信します。

●会員のお申し込み

U- ネット会員、善循環の輪会員とも、当NPOのホームページ、または電話にてお申し込み下さい。

- ・ホームページ <http://www.unet.or.jp/>
- ・電話 03-5427-2348

NPO 地球環境・共生ネットワーク

〒105-0014 東京都港区芝 2-6-3 三宅ビル 4F

T E L 03-5427-2348 F A X 03-5427-5890

【発行元】

■NPO 法人 地球環境・共生ネットワーク

〒105-0014 東京都港区芝 2-6-3 三宅ビル 4F

Tel : 03-5427-2348 <http://www.unet.or.jp/>



2013.11.09